

地域密着型サービス自己評価票

- 指定小規模多機能型居宅介護
(指定介護予防小規模多機能型居宅介護)
- 指定認知症対応型共同生活介護
(指定介護予防認知症対応型共同生活介護)

(よりよい事業所を目指して・・・)

記入年月日	平成20年8月15日
事業所名	グループホームよつ葉
事業所番号	2375700693
記入者名	職名 氏名 米澤 藍子
連絡先電話番号	0569-62-2725

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名 (ユニット名)	グループホームよつ葉
所在地 (県・市町村名)	愛知県知多郡南知多町
記入者名 (管理者)	米澤 藍子
記入日	平成 20 年 8 月 15 日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの個性を尊重し、地域の中で明るく自由に豊かな生活が送れるよう支援していくことを理念としている。	○	今後もさらに、利用者の「普通の生活」を追求していきたい。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ミーティングなどで実践を振り返り理念を共有できるようにしている。		
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域の方々や、家族の方にも参加していただける行事を開催しこれまでやってきた。その結果、家族とのかかわりは、以前と比べて密になり、地域の方も気軽に訪れてくださるようになった。	○	新聞の発行が滞っているため再開したと思う。
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	気軽に立ち寄ってくださる方も増え、また、野菜や果物などを分けてくださる方もいる。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	浜掃除、公民館の掃除など、地域の活動に参加している。また、よつばの行事にも参加頂き、交流を深めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の高齢者に対し配食活動を行っている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	完全に理解しているとはいいがたいが、ミーティングで細かく確認し合い意識の向上に努めている。	○	意義を理解できるよう、職員で話し合いできる時間をもち、改善に取り組めるよう話し合う時間を設けたが、さらに時間を確保し理解し合いたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ホームの行事の報告やサービス名用の実情を相談したりして意見をもらってる。また、それを参考にしてサービスに活かしている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括支援センター主催の会議があり、情報を交換している。しかし町として、福祉に積極的な働きかけはない。	○	ホーム側より町に働きかけ、質の向上に取り組むことが重要。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	利用者で、ひとり利用している方がおられる。ホームとしては制度について学ぶ機会は少なく、スタッフが理解しているとはいいがたい。	○	機会を設け制度の理解に努めたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止には関心はあるが、法について学ぶ機会は持っていない。しかし日常の介護で、職員は虐待を見過ごさないように努めている。	○	学ぶ機会を設けたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	契約時は、管理者と主任で対応している。利用者やその家族に対してわかりやすく説明してる。	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	日常生活の中で意見や不満、苦情を表せていると思う。また、意見を聞く場として、利用者を交えた会議をおこなっている。	
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている</p>	ご家族の来所時に報告したり、日常の写真や様子を報告したりしている。また、医療機関への受診時は、その報告を電話で行っている。ご家族との対応については、記録をしており、スタッフ間で情報の共有をしている。	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	契約時に伝えている。また、国保連についても説明している。家族が来所された際は、ホームに対する要望を伺うようにしている。	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	特にそのような時間は、設けてはなく、個人的に話をするようにしている。	○ 不満や、不安がスタッフ間だけで蔓延しないためにも、意見等を聞く機会を設けていきたい。またその際には意見がしやすい環境を整える必要がある。
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	隔週で、スタッフ全員参加によるミーティングを開いて要望と状況の変化を確認しあっている。また、毎朝と、スタッフの入れ替わりの際に申し送りを行い、情報の共有と理解に努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新しいスタッフが入った場合、利用者の混乱を減らすための配慮をしている。例えば、利用者新しいスタッフとを交えて3人で会話をしたり、また、新しいスタッフには、利用者への言葉遣いに気を配るように呼びかけている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回、スタッフ全員参加による研修会を開いている。新入社員、アルバイトに対しては、初任者研修を行っている。また、外部の研修に関してはほとんどの場合自主参加である。しかし、金銭面での補助はしている。その他、職員の段階に応じた研修は計画していない。	○	スタッフの段階に応じた研修を開くとよい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋のグループホームと交流する機会を持っている。	○	愛知県グループホーム協会が地域の同業者との交流を深めようという動きをとっている。それにあわせ、交流が深まるとよい。また、その他にも、他の施設での研修を計画的に行えるとよい。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	休憩室を快適に過ごせるよう、エアコンを設置した。その他、希望休をとりやすかったり、勤務の調整をしたりと働きやすい環境づくりに努めている。	○	しかし、仕事の偏りがあるため負担がかかっているスタッフもいる。そのことも、運営者は、把握する必要がある。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員の状況把握に配慮しているが、完全な把握はできてない。スタッフ間で不安や不満がでた際、主任が代表となり、意見を伝えたことがあった。	○	不満や、不安がスタッフ間だけで蔓延しないためにも、意見等を聞く機会を設けていきたい。またその際には意見がしやすい環境を整える必要性がある。さらに、スタッフの実績に対する評価方法、手段があればいいと思う。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	経営者と主任が主となり、利用者の面談を行っている。また、本人の表せない思いを表情、感情から読み取るようにしている。利用者の要望は、ミーティング等で話し合い情報共有している。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	主任、管理者が窓口となり困っていることなどを電話や面談の機会を設け聞き入れ、その課題に対しスタッフ全員で支援できるよう努めている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	グループホームの入所の相談段階においては、他のサービスを受けながらも、在宅生活困難になっていることが多い。状況判断から、他のサービスの必要性を考慮し入所できないときは、配食、通いの支援を検討し、入所された場合は、利用者とその家族の要望を反映できる支援に努めている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	必要に応じてショートステイや、通所を行いまたは、習い事をする場ということから印象付け、慣れていただくところからはじめている。その際、本人の気持ちを尊重した上での支援方法を選択している。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活の多くの場面で共に過ごし、例えば洗濯、食事作り、買い物を行っている。しかし、高齢化する中でできないことが多くなってきた人もあり、その際は、支えあう関係として支援している。また日常生活を共に過ごす関係性は、時に多くのことを教わり、怒られたりたりすることもあり介護される一方の立場においていないと思う。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	行事への参加、面談等で家族の利用者さんへの理解が深まる機会やまた、家族の意見を聞く機会もふえている。今後も、継続し、さらに信頼関係が築けるとよいと思う。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	これまでの関係について、プライバシーに配慮しながら話を聞くようにし、関係の理解に努めている。本人と家族の関係が途切れないよう、電話で状況を伝えたり、ケアプランを郵送したりして日常生活の様子を把握してもらえるようにし、支援に協力してもらえるようにしている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの生活や関係は継続できるように努めている。また、利用者の「会いたい」「行きたい」とう思いの実現を行い、例えば、若いころやっていたお参りなどもはじめ心のよりどころを持てる場に努めている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	すべての利用者が気が合うわけではないので、仲のよい悪いがはっきりしてるひともいる。それを考慮しながらも、共同生活をしている仲間として意識や理解し合える環境づくりに配慮している。	○	しかしながら実際、喧嘩を避けるために距離を置いてしまったり、個人への配慮に偏った支援になりがちである。共に生活する仲間として、相手を受け入れる感情の低下に配慮しつつ支援していくことが必要。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所され、入院しているもと利用者がいれば、個人的にお見舞いに行ってるスタッフもいる。積極的に関係を断ち切ることはないが、必要とする家族もとくにはいない。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何をしたいのか、なにを食べたいのかなど日常生活の会話の中ででききいれている。また、誕生日には、本人の食べたいものや、生活を振り返ってほしいと思われるものをプレゼントしてる。しかし、生活全般においてすべて本人の希望や意向を把握できているわけではない。	○ 日常的に一人ひとりの思いを聞くようにし、実現できるようにスタッフ間で、情報の共有を行いたい。また、ともすれば、職員の思い意向をおしつけてしまうことを自覚し、気を付けなければならないと思う。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	まず、入所時に家族とご本人から情報を得るようにしている。また、入所後は、日常生活の会話や家族の来所持に確認するようにしている。その後ミーティングで話し合い利用者の日常生活に反映するよう努めている。	○ 利用者のこれまでの生活を、一方の情報により偏った見方をしていないか、またそれが事実であったとしてもそれに流されることのない支援をしているか確認することも必要。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	ミーティングや朝の申し送りで情報の共有に努めており、本人主体の生活が送れるように介護計画を立てているが、表面的な行動や事実でその利用者を判断してしまうことも少なくない。心身の状態が発揮できる力が異なることは分かっているがそれを含め変化に対応しきれないこともある。	○ 一人ひとりにあった、1日の過ごし方を本人によりそって考えることが必要。一人ひとりの状況の変化に早く気づき、対応できるようにしていきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人と家族の話し合いが十分であるかは、疑問があるが、日常のやり取りの中から、本人の要望を聞き入れミーティングで話し合い介護計画を作成している。	○ 介護計画の意義をすべての職員が理解し、それらが書面上のものにならず、本人らしい生活が送れるようにしていく必要がある。また、本人家族の要望を聞き入れる環境づくりにも取り組みたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しは3ヶ月ごとに行っており、月2回のミーティングで確認しあっている。しかし、実際変化が生じた場合には現状への対応が先で、計画は遅れて作成していることが多い。その場合、ケア内容の変更を確認しあう。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の日常の様子を、個人記録に細かく記入し、スタッフ入れ替わりの際など申し送りをしている。また、月2回のミーティングでも確認しあっている。しかし、時に重要なことが記入漏れしていることもある。前回の指摘により記入用紙の量は改善。外部に比べまだ多いかもしれないが細かなことまで確認できる。	○	記録の意義、その活用について勉強する機会を設けたい。記入漏れを無くしたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームしか運営していないため、多機能性をあまり持ち得ない状況である。しかし、地域の高齢者への配食活動など、現状でのできる限りの支援に努めている。	○	活動範囲を広げる手段として、宅老所があるので話し合ってみたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防の方は、講習に参加してくださり、警察官は、利用者の話を聞いてくださったこともある。ボランティア活動は、近所の書道家による書道教室、その作品は文化展へ出品。また中学、大学生によるボランティア体験学習受け入れ体制もある。民生委員の方は、運営推進会議参加、行事への参加をいただいている。	○	高校生との交流機会がないので、進学や就職を決める時期の子供たちにとって、よい経験や参考にしていただける機会を設けたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	これまでは、管理者と主任が必要性に応じて、社協のケアマネさんを交えて話し合ってきた。他のサービス利用可能な利用者については、ヘルパーを派遣して、外出の支援を行っているが、外部のサービスを取り入れることは、家族の金銭的負担も増すので、あまり積極的には検討していない。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	成年後見制度を活用している利用者がおり、後見人の方と電話や来所時に情報共有をしているが、地域包括センターと共働しているかは、わからない。また、どのようにしたら協働できるか、わからない。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	入院中の利用者の様子が、スタッフ全員にいきわたるまで、時間がかかる。また、医療機関への働きかけや連携について、主任だけにその判断を負わせるのではなく、職員全員で話し合いを行うことが重要
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	終末期のケアについて家族と話し合う機会を設けたい。また、スタッフの終末期に関する知識を高め、不安や心配事が減るためにも、勉強会や研修会を開くことが必要。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	今後も話し合いを継続し、その際、ドクターから得られる協力についても確認し合いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報交換を行い、新しく入所された方のケアとして、楽しみ、充実感をもてるようにし、ダメージを防ぐよう支援している。しかしながら、すべてのスタッフができていくわけではない。また、支援しているものの、住み替え時には、何らかの変化があると思う。	○	新しく入所される方の情報をすべてのスタッフが把握できるよう情報共有の体制のあり方を見直したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の尊厳を意識し、言葉かけや対応については、その人に合った対応に努めている。しかし、時折～ちゃんと利用者と呼んだり、着替えやトイレの支援でプライバシー確保が不完全であったりする。また、その対応が馴れ合いになっていたり、時にプライバシーを損ねるようなことになってはいないかを見直していない状況である。	○	職員の意識が徹底されていないこと、不完全であることに気づくために、本人や家族の立場になり、利用者の表情や反応を勝手に判断せず、誇りやプライバシーを守っているかどうかを見直していきたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	利用者の本音が出せるような話題や環境の提供に努めてはいるが、全てのスタッフが、あるいは、毎日中で行えているわけではなく、思いを表せる利用者にケアが偏っているのが現状。	○	日常生活の中で、本人の意思を確認しながら支援していくことが、なぜ大切なのかと言うところを、全ての職員が再確認することが必要。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースで過ごせるように支援しているが、職員数も不十分な事もあり必ずしも希望に沿ったものとはいえない。しかし、一方的にならないよう、利用者と話し合いを持ち、折り合う点を見つけられるように努めている職員もいる。	○	ひとり一人のペースを大切にするために、職員間でケア内容を確認し合い、私たちのやるべき仕事とは何なのかを理解し合いたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	着てる服について話題にしたりどんな服を着たいか、おしゃれをしたいかについて支援している。また、カットはよつばで行い、行きつけの店があれば行く事も可能。しかし、現状、偏りも見られる。	○	買い物や散髪について、全ての利用者の思いを聴けるような支援に努めたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>	○	<p>日曜日のメニューは利用者の希望が優先なのだが、スタッフの食べたいものや、簡単に作れるものにしてあることもある。その他、食事の楽しみとして、色取りや味付けの工夫も取り入れ、味覚からだけでなく、視覚からの支援も心がけたい。</p>
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>	○	<p>ただし、全ての職員が好物を把握しているわけではないので、情報を共有しあうなどの手段を使い、把握したいと思う。また、機会の提供にも努めたい。</p>
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>	○	<p>利用者の心身の状態によっても排泄のパターンや失敗はあると思うので、一人ひとりを把握し支援していきたい。</p>
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>	○	<p>利用者が、受身にならないような生活援助が必要であり、そのための話し合いが、何より必要。</p>


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人や家族の希望によって自分で小遣を管理したり、ホームで管理したりしている。なるべく、本人に管理していただきたいと思うが、紛失を恐れるあまり事務所で管理してしまう利用者もいる。その他、施設の買い物の支払いをしていただくこともある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	朝の弘法参り、夕方の浜辺の散歩、近くのスーパーへ買い物などへ本人の希望で、外出している利用者もおられる。しかし、気候や心身状態を考慮しているため、時には、屋内で過ごしてもらうこともある。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者とその家族の皆さんとで温泉旅行、梅澤富男舞台、潮干狩り、昔から信仰している方の生駒山参拝などチラシを持ち込み話題を提供したり、その人との生活史をたどり支援へ結び付けている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	回数は少ないが、本人が電話したいときにしたり、プレゼントをもらったときにお礼の手紙を書いたりしている。また、年賀状を書かれる利用者もいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	いつでも訪問できるよう、玄関に鍵をかけず開放的にしている。また、利用者の普段どおりの姿を見ていただきたいという思いもあり、いつでも来てもらえるよう声をかけている。	○	今後も、来所しやすい環境づくりと、来所所して頂けるように家族への支援に努めていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	正しい理解には至っていないが、絶対に起こしてはならないという意識がスタッフの中にはある。また、そうなる、そうなりそうな気持ちはだれにでも起こりうるので、ミーティング等でその話題が出るようにしている。	○	身体拘束について正しく理解できるよう勉強会や研修会を行いたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけるのは夜間、職員がひとりの時間帯のみである。居室には鍵はなく、鍵をかけることによる行動の制限が、心理面へ与える影響をある程度理解していると思うが、全ての職員がそうかは分からない。	○	弊害についてこの機械に再確認したい。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中はスタッフ間で情報を共有しながら所在を把握している。夜間は、2時間ごとに巡視をし利用者の様子を把握している。玄関には、ブザーを設置し危険を回避しているが、時にひとりで外出してしまうこともある。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	その方が必要な場合は、はさみや爪切りを所持している。また、裁縫針やマッチろうそく等は使用するときにお渡しし、使用後は、事務所で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	緊急時の対応について消防署と連携をとり講習を開く予定がある。また、誤薬がないよう、薬の管理は、個別の袋にいれ名前を書いている。事故等があった場合は、ひやりはつとに記入し情報共有と改善に努めている。	○	
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署と連携して訓練を行ったことはあるが、その後定期的は行えていない。	○	今年は、消防の訓練を予定しているので、その後継続できるよう計画を立てたい。また、スタッフ間で話し合いたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防との関係は、以前よりある。地域の方とも交流は図っており、運営推進会議でも協力はお願いしている。しかし、現実には、夜間スタッフ1名対9名の利用者となり、歩行困難の利用者もいる。	○	利用者9名の方を無事救出できるためにも、近隣との関係に安心するのだけではなく、震災時の援助についてより密な関係を気づく事が必要。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	心身の状態を把握していただくために、通院時の医師の見解を、緊急の場合は電話連絡し、そのほかは電話連絡または、来所時に報告している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人記録等の記録で情報共有し、1日のスタッフ入れ代わり時には、申し送りを行っている。その際、申し送りもれないように心がけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作り、一覧にしている。しかし、スタッフ全員が把握しているかは、定かではない。	○	利用者の心身の把握につながることで、ファイルに目を通すなどのスタッフ一人ひとりの意識が必要。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘気味の方は、排便のリズムを知るために記録し、水分補給や下剤服用などで調節をしている。また、便意や尿意の感覚を取り戻すために、トイレ誘導も行っているが、一部のスタッフに留まっている。	○	排泄誘導を行う意味をもう一度理解し実行することが必要。また、便秘対策として、水分補給だけでなく、食事の面からも見直しが必要。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	習慣もあり、それを尊重する気持ちもあるが毎食後実際やってない。毎食後はできていないが、義歯の利用者1日1回は洗うように支援している。	○	口腔ケアの徹底に努め、誤嚥性肺炎の防止に繋げたい。そのために、口腔ケアについて正しい知識を学ぶ必要がある。
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量の少ない方は、個人記録に記入し把握し努めている。また、重点的に支援を必要とする時季には、特に記録への記入に注意し、全職員が把握している中で支援をおこなえるように努めている。	○	栄養学等を学び、食と健康についての知識を深める機会を設けたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	保健所が主催する、感染症についての講習会に参加したスタッフが、ミーティング等で他の職員に伝え実行している。例えば、食事前のアルコール消毒の徹底、トイレ掃除の塩素の消毒、嘔吐物、排泄物の処理方法をスタッフは、感染を意識した上で行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食器は、食洗機にて熱湯消毒、その後は使い捨てキッチンペーパーにて拭いている。また、手洗い後の手ふきも使い捨てのものにしている。その他、買い物は、毎日行くことで食中毒防止に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花壇を作り、季節の花々を植え、近隣の方にも気軽にのぞいていただけるようにしている。建物は、古民家のままで、地域にもなじんでいる。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、飾るものを換えたりと利用者にとって居心地のよい環境づくりに努めている。	○	朝の掃除などで決まったところの掃除はできているが、細かいところの掃除については、行き届いてない。掃除を定期的に行えるような体制作りが必要。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	特に一人でいれる空間の提供はないが、居室、居間、食堂などでここに過ごされてる。また、居室前の廊下等で座ったり、外の様子を眺めて過ごされる方もいる。	○	利用者は、ひとりになりたくて一人である場合と、何をしたらいいのかわからなくて一人である場合がある。職員は、利用者の行動から、利用者がそこにいる意味を把握し支援つなげる必要がある。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	愛着のある家具等を持参していただくことで、本 人への負担を減らしている。また、生活上で必要 となるものは、(例えば、PT) 家族との相談上で 結論を出すようにしている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	両者の身体状況に応じて、エアコン、扇風機、ほ っとカーペットの使用に工夫をしているが、これ までの生活で使用してこなかった冷暖房機器に 抵抗のある利用者もいるので、その思いを尊 重しながら支援を行っている。換気等も嫌がる 方もいるが、その場合はいない時に換気せ せていただいている。	○	外気との温度差が出ないように、タイマー使用 とこまめに居室の温度調節を行うことが必要。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活 かして、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	必要に応じて手すりすべ止め等はつけている。 建物はもと民宿のままで、段差などは特に手 を加えず、むしろリハビリのために有効活用 している。その他、居室へのポータブルの設 置を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	病状の進行もあり、分かる力の的確な把握が 困難となることもある。また、能力の把握が できていても、「こうしたら変わる」という 工夫の視点がかけている。	○	職員間で情報のこまめなやり取りを行い、能 力の的確な把握に努めたい。また、スタッフは、 利用者のできることまで奪ってしまわないよ うに話し合いを深め、意識の共有に努めたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	裏には畑があり、庭には花壇があり、花や野 菜を育てている。また、庭や2階のベランダ には、ベンチを置き、おしゃべりを楽しめる ようにしている。	○	夏は、暑さ対策が必要。

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者の持っている力の掘り起こしに努め、日常生活の中に造形活動を多く取り込んでいる。
(粘土、絵画、習字、手工芸等)継続的に行い、地域の文化展に毎年出展している。
作品を多くの一般の方に見ていただくことで(一般の出展者にまじって)、認知症の方に対する理解を深めてもらう意味も担っていると考えている。